

第4回武蔵野市立武蔵野プールおよび武蔵野温水プールの整備方針に関する有識者会議要録

日 時： 令和6年9月18日(水曜日) 午後3時から午後4時00分

場 所： 市役所西棟4階 412会議室

出席委員： 小林宏委員、林立也委員、松田雄二委員、水谷俊博委員、宮下みさ子委員

会議進行： 東畑建築事務所

事務局： 教育部長、教育部生涯学習スポーツ課スポーツ推進担当課長ほか

1 開会

2 配付資料の確認

3 議 事

議事1 新たな武蔵野市営プールの整備に向けて

【事務局】本日の議事について、この間の第1回から3回までの会議内容を踏まえ、施設の保全改修は現実的でなく、バリアフリー設備を充実させた屋内(温水)プールの建替えは必須であるという方向性を前提として、屋外の一般的な25mプールを残す案と、屋外(温水)プールのみの方の案の検討において、近年の気象状況や、屋外プールの維持管理コストの課題に加え、新しく整備する屋内(温水)プールに加え、今後の市営プールに求められる機能、あるいは施設とは何か、という点において、プール施設本体や周辺施設、外部空間を含め、どのような取組が必要かまた、“誰もが”という視点でどのような機能の整備が必要か、などについて、今後の市営プールの整備に向け、委員のみなさまのご意見やお考えを伺いたい。

進行役より「資料1 公営プール整備の最新事例の紹介」説明

【委員】細かい質問だが、一般更衣室と多目的更衣室が分かれているのは、計画上望ましい構成なのか、敷地条件等によるものなのか。一体的に計画した方が良い側面もあると思われる。

【進行役】その点に関して具体的に他施設の管理者にヒアリングはできていないが、車椅子の方やLGBTQなど様々な方に対応する更衣室をしっかりと作る考え方と、一般更衣室の中に分け隔てなく使える多目的更衣室を作る考え方のどちらもあり、その施設ごとの考え方によって整備されると感じた。事例で提示した板橋区小豆沢プールは、車椅子の方でも使いやすいように前者の様々な方に対応する更衣室をしっかりと作る考え方で整備されていた。

進行役より「資料2 武蔵野市営プールに求められる機能」説明

【進行役】屋外プールの扱いについて意見を伺いたい。

【委員】場所が限られているため屋内プールと屋外プールの両者を作るのは難しいと考えている。また、屋外プールの使用期間も短く利用者が限られてしまうので、費用を考えると屋内プール一本化で良いと考える。

【委員】先程も意見が出たが、屋外プールを使用できる期間が短く、競技団体の活動を推進する代表の立場から言うと、屋外プールは必要なく、水泳競技においては公認の試合ができる全天候型の屋内プールに改築してもらうことをお願いしたい。最近の夏の状況を見てみると酷暑や豪雨、雷雨などが多いことから安全性の確保に加え、使用期間も短いことも考えれば屋外プールは新築せず、付帯設備が充実しバリアフリーで誰でも使えるプールが新築できることが理想と考える。

【進行役】スポーツ運営団体の意見としては、屋外プールは必須ではなく、屋内で充実した大会運営ができることの方が重要となるとのご意見を頂いた。十分にスペースを確保することでより良い施設になると思う。

【委員】エントランス広場部分について、災害時の活動の際に、どれだけこの場所が使われる可能性があるかについての検討はしておいた方が良いと思っている。また、先程委員から一般更衣室と多目的更衣室が分かれている点について議題に挙がったが、小豆沢プールでは面積的に限りがあって一般更衣室の中に分け隔てなく使える多目的更衣室を作ることができなかったのではないかなと思う。計画学の立場からすれば、アクセシビリティやノーマライゼーションを考慮すると、更衣室を分けることは合理的ではない。LGBTQ の特に T の方が、自身が特殊な設備を使わなければいけないと認識できるか、という懸念がある。一般更衣エリア内にある多目的更衣ブースを使うのであればある程度のプライバシーが保てると思うが、更衣室が完全に分かれている場合、多目的更衣室を使う人は何らかの事情があると周囲から思われてしまう。そのため、一般更衣室と多目的更衣室は同じエリアにあるべきだと思う。本計画で更衣室のエリア取りを優先するのであれば、屋内面積をどれだけ確保できるかが重要となってくると思う。屋外空間との取り扱いの中で優先順位をつけていけば良いと思う。

【進行役】LGBTQ 対応などの多目的更衣室は一般更衣室に混ぜ込み計画することが良いというご意見と、屋内で必要な面積と災害時に必要な緊急車両駐車スペースなどの屋外で確保すべき面積に基づいて優先順位を付けていくべきというご意見を頂きました。必要なスペースなどは今後事務局と精査しながら今後に活かしていきたいと思う。

【委員】屋外プールで遊んでいた子供たちはどうするのか、という話を以前挙げたが、ストリートスポーツ広場のような何か別の要素を設け、遊べる場所を子供たちに作るなどプー

ル以外の遊べる要素の選択肢も考えられる。夏だけでなく日常使いができるので良いと思う。屋外プールなどのモノがなくなった分、他の選択肢が増えた施設事例も増えているのではないかと考えている。また、エントランス広場ができて、この周辺を一体的に活用できるような考え方が出てきたときに、ここを拠点と捉えてエリア全体を使って遊べる、または高齢者の方が散歩するなどの活用が考えられる。武蔵野市のウォーキングマップを拝見すると、本敷地内がルートの一部となっているので参加者の休憩場所となる、市役所へ来た人は市役所だけに行く、野球をしに来た人が野球だけをするというのではなく、このエリア全体が来る場所となると良いと思う。

【進行役】敷地全体で皆さんが自由にスポーツに親しむことが大切だと思う。また、泳ぐための競泳用プールと水に親しむためのレジャー用プールがうまく融合した事例や考え方などご存じでしたらご教示いただきたい。

【委員】事例は存じ上げていないが、例えば6コース中2コースを子供のフリースペースにするなど、運営の工夫でレジャー要素を入れ込むことは可能なので、すべてハードで解決しようとしなくても良いと考える。また、以前お伝えしたように一部の学校プールをレジャー要素として開放するという工夫もあると思う。

【委員】資料2の全体配置図が示されているが、大きな屋外プールを設置しなくても、小さな規模のプールを設置することも1つの案だと思う。また、運営上の課題がクリアできれば、その外部のプールと内部の子ども用のプールを一体的に整備して、可動間仕切り等を設置しながら内外で連続した利用もできるようにすることも可能性があるかもしれない。屋根付きのテラスなどのように少しでも外に出る空間を作ることも1つの案だと思う。また、エントランス広場は全体を結びつける場所となると思うので、車道と歩道の物理的な区分はせずに、できるだけフレキシブルに様々なことに利用できる場所になれば良いと思う。

【委員】小豆沢体育館屋内プールのエントランス付近にあるプレイルームは、実際どのような使われ方をしているか。

【進行役】ダンスなどのプログラムを行う場所や大会時の招集場所や運営場所として使用していると伺っている。

【委員】子供連れの親子がプールに来る場合、未就学児の親が乳幼児の世話をしながらプール見学をすることも考えられる。その場合、観覧スペースでは難しく、小豆沢体育館屋内プールのプレイルームは乳幼児を遊ばせながらプールを見学できる意図で計画されたのではないかと推測する。面積の取り合いに影響するため、どこまで子供に対するスペースを設けるか検討する必要があるが、おそらく最近は子育て支援の視点を取り入れた施設が多いので、プレイルームのような機能は必要となりつつあると考える。屋外スペースも子供連れが遊べるような機能を作っておくということも、今後考え方として大切となってくると思う。

【進行役】小さい頃はプールを眺め、泳げる年齢になったらプールに入るように、プール人口を増やしていくことは自然な流れだと感じるので、プレイルームのような機能を取り入れることはひとつの案だと思う。

【委員】子どもに特化した考えであれば、多目的スペースを作る以外に、床に傾斜や起伏を付けたり、遊具がある屋内空間を設けることも考えられる。多目的スペースを作る際は広いものとし、フレキシブルに使用できるものであれば尚良いと思う。また、子供に向けた取り組みを行っているエコリゾートとも運営プログラム等を連携できれば良いと思う。

【進行役】敷地条件を考えると、競技要素の他にレジャー要素を設け、誰もが楽しめる施設にできる面積はおおむね担保できると思うので、意見を参考に計画を進めていきたいと思う。

【委員】付帯施設として考えられるのは、エリア内の連携を考えると、総合体育館のスポーツの用途と関連した機能が考えられる。例えば、エクササイズスタジオ、ダンススタジオ、スケードボードパーク、などが他事例でもみられる。また、付帯施設の種類には、カフェやキッチンスタジオのような賑わいを生む付帯機能と図書コーナーのような静かな付帯機能が考えられると思う。限られた条件の中なので、クリーンセンターなどの周辺環境との関連性も鑑みながら付帯施設の方向性も探っていく必要があると思う。また、緑地や屋上庭園などの憩いの場を設けることも考えられる。

【委員】プール内の計画について、入口から離れた場所に幼児用プールを設けると大人と子供の動線が交錯してしまうので、入口付近や壁側に寄せて幼児用プールを計画する方が良いと思う。また、敷地内で使えるスペースはなるべく使い、大会時の招集場所などに活用できればいいと思う。

【委員】エネルギー多消費施設である温水プールは、クリーンセンターの排熱利用先として、クリーンセンター近くの住民の生活とかけ離れた場所に作られることが多いが、本計画場所は行政地区の中心にあって、かつてのクリーンセンターのイメージを払拭でき、価値を十分に説明できる最適な立地にある。クリーンセンターの周辺に、市役所、エコリゾート、プールがあり、うまく排熱を利用できていることをアピールできたら良い。一体的な利用、人の流れだけではなく、エネルギー的な視点も含めてよりアピールできる形で整備されることを期待している。

【委員】誰もが使えるということを目指すときに、今までの施設だと使えなかった、また使うことを控えていた人達を、改築によって利用してもえるようにすることも大切だと思う。例えば重度の身体障害者や、中度障害で義足になってしまった人などが使いやすいよう配慮された施設になればいいと思う。近隣には障害者地域生活支援施設や障害者福祉センターがあるので、今までプールをなかなか利用できなかった人たちのニーズを伺いながら”誰もが”という点を広げていければ嬉しい。

【委員】小さな女の子とお父さんが専用で使える更衣室、車椅子などの肢体不自由な方が使いやすい施設は、結果的にお年寄りにも優しい施設になると考える。大会の時はプールサイドや更衣室に大勢の人がいることになるので、選手が集まる場所が必要不可欠だと思う。また、大会は土日祝が多いのにも関わらず、周辺に飲食できる店舗が少ないため、付帯設備としてカフェなど入れて市民や来場者が過ごしやすい場所になればいいと思う。

【進行役】委員の皆様ありがとうございます。頂いた貴重なご意見を参考にしながら今後計画を進めていければと思う。

4 その他

事務局より 事務連絡

事務局より 閉会の挨拶

【事務局】第4回武蔵野市立武蔵野プールおよび武蔵野温水プールの整備方針に関する有識者会議を閉会する。